



独票に登れば十数人の先客
西穂高山荘で泊った人たちがあろう
互に写真撮り合つて
北に向うは ねむり
遠くに今日の目標奥穂高岳が
小さく三角に尖つて聳る
前穂高岳に吊尾根を懸けている。
左には肩を怒らすジャンダルムが
黒々とその偉容を誇り
その奥には無数の山々が
薄青く折り重なつて見える
私の胸はジーンと熱くなり
見下ろす前は 瘦せた岩稜
深志高校生が大勢雷雨で遭難した
見るも厳しい岩尾根を行くが
岩峰は荒々しく崩壊し
こわが歩ける道かと疑うほど
言語に絶する無惨な縦走路
何百年前にできたのであろうかこの山
風雪と光線による長い間の風化現象が
この傷ましい姿に変えたのであろう
緑の三角形はピラミッドと呼ぶ峰
息もつけぬ多くの岩峰を越え
漸く登り着いた西穂高岳
朝霧は消え谷は深く沈み
私ひとりだけの静かな展望
前方の稜線はどこまでも荒々しく
岩肩は茶褐色を呈して山崩れ
これでは雷雨に隠れるところが無い
乱れた岩崖を下る再び岩稜に行く
木も草も生えない岩稜に
さわやかな風が吹き付け
寒々とした荒涼たる分水嶺
覗き込めば脚のすぐ下断崖とガレ場
行き詰まりかと思えば巻き
予測できない縦走路は
灰色と化した踏跡だけが導いてくれる
岩峰と鎖でへつり巻いて
吊るされた長大鎖をカリカリ下り
平頂峰のピークへ登る
痩せ細る岩尾根の足元に
心と氣付くイワモウの花
私はオドオドしながらしゃがみ込み
よくぞ咲いた」と賞めてやる
逆層ギザ段のへつりは命がけ
風の息を狙つては手をつかみ替え
脱落しない岩角をつかみ下る
青々茂る尾根道を懐しみながら
入った以上は無事やそのけねばならぬが
歩けば歩けば赤茶けた岩肩は続く
最大の崩壊は間ノ岳
ルンゼの岩肩にうんざりしながら
ガラガラ崩れ落ちる音を聴く
注意カと闘志だけが山を登る
間ノ岳山頂に立てど
赤茶けた岩稜は天狗岳まじ荒々しく続いている